



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

上勝町の取り組み

8月半ばに知人の案内により、山村のまちおこしで話題の徳島県上勝町、神山町を見学してきました。どちらも印象的だったのですが、上勝町の取り組みは雑誌などで紹介されているイメージとは違う発見があり、一次産業の盛んな南あわじ市でも参考になるところが多々あると思いましたので、今回のコラムでご紹介することとしました。

まず、葉っぱビジネスとして有名な「いろどり」です。私は注文リストが表示されたタブレットを手にしたおばあちゃんが山中を駆け回って葉っぱを集める姿を想像していました。実際は少し違って、各農家が注文履歴などから将来の需要を予測して、自分の畑に南天、モミジ、ハスの花などを植えています。そして情報センターから送られてくる都会でのイベント情報や需要予測に基づき、あらかじめ葉っぱを摘んで水に浸しておくなどの下ごしらえをしておきます。誰かが悪い品質のものを出荷してしまうと、以後注文が来なくなるという危機感が出荷者の間で共有されており、頻りに勉強会などを開催して品質確保に努めています。

また、一部の農家が注文を独占してしまわないよう、一つの注文をクリックして納入予定者として登録すると、それをJAに納入するまでは、次の注文を受けられないシステムになっています。

つまりこのシステムは、まずJAの営業部門が積極的なマーケティングにより注文を獲得し、農家はそれを踏まえて自ら作付けし収穫するものを決めるという、一次産業における受注生産の仕組みが基本にあります。これは日本の農業・漁業が今後実現せねばならない、「需要に応じて生産・収穫する」という目標を先行的に実現したものだと思います。そして、その作物がたまたま高齢化が進んだ山村という地域に合致した、重量もなく、腰を曲げなくても取り入れられる、「葉っぱ(ツマもの)」であった、またできるだけ多くの人を動員して、無理なくその需要に応じていく仕掛けを作ったということでしょう。「いろどり」が普及してから、喜んで働く高齢者が増え、医療費も削減されたと聞きました。

この町はそれだけではなく、役場の若手職員の熱意を活かして、ゴミの綿密な仕分けとリサイクルを実現し、ゴミゼロの社会を目指しています。また、豊富な山林資源を活用すべく、様々な苦勞しながらも、公共施設等に木質チップのボイラーで熱を供給しています。

住民の力で地域の資源をとことん使い尽くすという考え方を忠実に実行に移している姿に感動を覚えました。近年はこうした町のあり方に共感して若者の移住も増えているとのことでした。



ゴミゼロを目指して町全体でリサイクルに取り組む上勝町

市議会議員選挙の日程

告示日 10月22日(日)

投票日 10月29日(日)

南あわじ市選挙管理委員会 ☎ 43-5004

兵庫県防犯協会  
連合会表彰式

兵庫県内で地域の防犯活動や青少年健全育成に積極的に取り組まれた団体や個人が表彰されました。  
◆防犯功労者表彰  
佐藤 富夫さん(福良門田) 照子さん(八木)



義援金を市長に手渡す浦瀬さんとリサイクル共演者のクラリネット奏者ホーカン・ローセンダレンさん

九州北部豪雨災害の復興を祈り  
義援金を寄贈

福良出身でピアニストの浦瀬奈那子さんが7月13日に市役所を訪れ、九州北部豪雨に対する義援金6万円を守本市長に手渡しました。洲本市での浦瀬さんのリサイクル直前に、九州北部での豪雨災害が発生。被災者が少しでも早く元気になつてほしいとの想いから、急遽会場で義援金を募集しました。

恒久平和を祈り  
戦没学徒追悼献花式を挙



終戦の日の8月15日、若人の広場公園で市主催の戦没学徒追悼献花式が行われ、行政関係者のほか、市遺族会や各種団体の代表、そして南淡中学校の生徒を含む教育関係者ら55人が参加しました。  
南淡中学校の吹奏楽部員による黙祷曲が演奏される中、参列者は先の大戦で散

華された約20万人の学徒に黙祷を捧げた後、白菊を献花台に供え、戦没学徒の追悼と平和への誓いを新たにしました。  
同日の夜には萬灯会が開催され、法要の後、同公園の「永遠の灯」から分けられた火が灯籠に灯され、広場には「平和」の文字が浮かび上がっていました。



戦没学徒を追悼するため白菊を献花する南淡中学校生徒会役員



南あわじ良太郎西瓜に認定された生産者と杉審査員長

昔ながらの西瓜復活プロジェクト  
「南あわじ良太郎西瓜」収穫祭

南あわじ良太郎西瓜の収穫祭が7月23日、美菜恋米屋で開催されました。俳優で歌手の杉良太郎さんが昔食べた皮が薄く舌触りの良い西瓜の復活をめざし、6年前から市内で栽培が行われています。「南あわじ良太郎西瓜」は、栽培された西瓜の中でも収穫祭の審査で杉さんに認められた西瓜にのみ与えられる称号で

す。その称号をめざし、今年には市内23の個人、団体が栽培に挑戦しました。収穫祭では、杉さんら審査員が出品された西瓜21個を一つずつ、香りや味を確かめていました。  
◆認定された個人・団体は次の通り  
夏子西瓜 吉備国際大学 富研号復刻版  
|| 納昭夫さん(俊文)

◆江原啓之特別講演 in 南あわじ  
演題 — 未来をひらく法則 —

地域の人を対象とした吉備国際大学地域連携講座として、本学客員教授でスピリチュアリストの江原啓之先生による特別講演を開催します。



受講を希望される人は、早めにお申し込みください。なお、未就学児童の入場はご遠慮ください。

日時 10月4日(水) 15:00~16:00

場所 同大学南あわじ志知キャンパス体育館

受講料 2,000円 定員 500人

申込方法 同大事務室にて前売券を販売します。

販売期間 9月1日(金)~15日(金)

※土日を除く午前10時~午後4時

同大事務室 ☎ 42-4700

◆第3回みんなでつくる淡路ブランド  
食品加工創作大会レシピ募集

ノンアルコール限定の“淡路島の食材を用いたカクテル”(ジュース、スムージー、フローズン等でも可)のレシピを募集します。



応募方法 ホームページ(右上二次元コード、<http://recipe.kiui.ac.jp/news/653/>)から応募用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、10月22日(日)までにご応募ください。

同大地域連携センター ☎ 42-4708

吉備国際大学からのお知らせ

